

令和5年度第3回富山県公立大学法人評価委員会 議事録（概略版）

1 日 時 令和5年12月22日（金）10:30～11:35

2 場 所 オンライン開催

3 出席委員

- ・金森 俊幸〔(一社) 富山県機電工業会会長・田中精密工業（株）相談役〕
- ・酒井 康彦〔名古屋大学特任教授、名誉教授〕
- ・茶木 梨津子〔公認会計士、税理士〕
- ・林 幸秀〔(公財)ライフサイエンス振興財団理事長〕※委員長
- ・藤重 佳代子〔(株)マーフィーシステムズ代表取締役社長〕

4 会議の概要

- ・司会が開会を宣し、県経営管理部次長より開会の挨拶
- ・司会より、林委員長に議事の進行を依頼し、以後の進行については委員長が行った。
- ・委員長より、法人が本日の委員会に最後まで同席することについて、委員の了承を得た。

議事1 公立大学法人富山県立大学の第2期中期目標の一部変更について

議事2 公立大学法人富山県立大学の第2期中期計画の一部変更について

- ・委員長より、議事1及び2はそれぞれ関連があるため一括して審議する旨、委員の了承を得た。

<事務局説明>

資料1-1及び1-2に基づき、公立大学法人富山県立大学の第2期中期目標の一部変更について説明。

<法人説明>

資料2-1及び2-2に基づき、公立大学法人富山県立大学の第2期中期計画の一部変更について説明。

(委員長)

これらの案についてのご意見をお願いしたい。

(委員)

附属施設について、計算機センターから情報基盤センターに名称が変更となっているが、どのような経緯によるものか。情報工学部の新設とは関係があるのか。

(法人)

業務の実態に合わせて計算機センターから情報基盤センターに名称変更するものであり、情報工学部の新設とは関係はない。

(委員)

財務の面で言えば、情報工学部新設後の予算については、今は計画中だと思うが、今年度の評価委員会でも議論していた光熱水費については新棟建設に伴う増額も含めて、精緻化して進めていただきたい。

(法人)

情報工学部開設に伴う予算は、いろんなところに影響してくるが、そのための必要経費については、県と協議しながら増額等を図ってまいりたい。

(委員長)

情報工学部での教育に関する目標について、中期目標(案)では、工学の専門知識と、データサイエンスの専門知識だけではなく、社会の潜在的課題を見極め、解決策を見出す能力を持った人材を育成すると掲げており、修正案としてはよくできていると思う。

今回示された中期目標(案)及び中期計画(案)については、評価委員会として、了承することとしたいがいかがか。

(各委員)

異議なし。

(委員長)

それでは、中期目標(案)及び中期計画(案)について、知事への意見書(案)をお配りする。

<事務局>

事務局から、中期目標(案)及び中期計画(案)に関する意見書(案)を提示。

(委員長)

本評価委員会から意見書として中期目標と中期計画のそれぞれについて、この案で問題ないか。

(各委員)

異議なし。

(委員長)

それでは、本評価委員会から意見書としてはこの案のとおりとしたい。

事務局から今後の流れについて説明をお願いする。

<事務局説明>

中期目標と中期計画の変更に関する今後の事務手続きについて説明。

議事3 その他(報告:富山県立大学情報工学部の開設準備状況について)

(委員長)

本件について法人から説明をお願いしたい。

<法人説明>

資料3に基づき、情報工学部の開設準備状況について報告。

(委員長)

本件についてのご意見ををお願いしたい。

(委員長)

情報工学系の学部、学科の新設は全国的な流れとなっており、今後他大学と競合していくことを考えると、富山県立大学の情報工学部の特色や魅力をどのように強めていくかを検討して必要がある。

そのときに大事なものは、やはりどのような教員を配置するかということ。今年度、採用活動もされているが、どのような分野の教員を採用予定なのか。また、外国人、女性、若手など教員の属性について

も配慮しているのか。

(法人)

採用する教員の分野については、基本的に数理的なバックグラウンドを持つ人材としている。また、データサイエンスを専門とする教員だけではなく、学部新設にあたって既存の知能ロボット工学科や情報システム工学科に所属しているデータサイエンスや人工知能を専門としている教員のデータサイエンス学科への移籍も行ったため、その空きを補充するために、ロボットや情報システムを専門としている教員の採用も行っている。

教員については、文科省の基準以上の教員配置としつつ、年次進行で充実させていきたい。

(法人)

女性の教員の採用については、本学では教員を公募するとき、まず女性限定の公募を行った後に、それが成立しなければ、その後、一般公募に切り替えるという手順行っている。現在、採用内定している6名中、1名が女性となっている。

また、教員間で公募を紹介していただくことや、さまざまな場でPRに努めることで、幅広い属性の人材が本学の公募に応募していただけるよう努めている。

(委員)

11月に推薦入試をすでに行ったとのことであるが、どの程度の倍率であったのか。また、定員に占める推薦入試の割合はどれほどか。

(法人)

推薦入試は情報工学部だけではなくて、工学部、情報工学部、看護学部、3つの学部で行い、全体の競争倍率は1.9倍であったところ。情報工学部については2.1倍であった。

また、情報工学部の推薦入試率は定員160名中41名であり、今般の推薦入試合格者41名全員に入学の手続きを取っていただけた。

(委員長)

情報工学部については、ようやく出発点に立ったところといえる。今後、情報工学部が教育や研究で、社会や地域にどのように貢献していくかを評価委員会としても確認していきたい。

議事4 その他(報告:地方独立行政法人法改正への対応について)

(委員長)

本件について事務局から説明をお願いしたい。

<事務局説明>

資料4に基づき、地方独立行政法人法改正への対応について報告。

(委員長)

本件についてのご意見ををお願いしたい。

(委員長)

国立大学法人での変更にも公立大学法人も合わせるという内容の法改正だと思うが、どのような趣旨でこのような法改正に至ったのか。

(事務局)

年度計画、年度評価の事務量が膨大であり、公立大学法人や設置自治体が一リソースを教育の質の向上や地域貢献に資する取組に十分振り分けられない状況が続いているため、事務の効率化を求める提言が自治体から国になされ、今般の改正に至ったと聞いている。

(委員)

今回の法改正においては、指標を盛り込んだうえで、年度計画及び年度評価を廃止することとされているが、富山県立大学では、盛り込むとすればどのような指標を盛り込むことを考えているのか。

(事務局)

指標のあり方に関しては、先行する国立大学法人の状況や、ほかの公立大学法人の状況を参考にしつつ、どのようにしていくか大学と考えてまいりたい。

(委員)

事務の効率化という法改正の趣旨も踏まえ、指標のあり方を検討していただきたい。

(委員)

年度評価が廃止された場合、本評価委員会の運営はどのようになされていくのか。

(事務局)

評価委員会での評価については、中間と最終の2回のみとなるが、今回議題とさせていただいている中期目標を変更の際などは評価委員会を開催することとなるので、結果的には1年に1回程度は評価委員会を開催する形になるのではないかと見込んでいる。

(委員長)

年に1回程度は評価委員会が開催されるのではないかとこの事であったが、全く開催されない可能性もある。議題を定めずオープンに評価委員の意見を聞くというのでもよいと思うので、年度評価廃止後は、年1回は評価委員会を開催するという事も検討していただきたい。

(委員長)

以上で、本日の議事を終了する。